

袋井のびやか保育園 自己評価

達成度判定は、A(100%-80%)、B(80%-60%)、C(60%未満)

| | | 2023年度 | |
|-------------------------------|---|---|------------|
| | | 現在の取組及び状況 | 今後の改善計画・目標 |
| | | | 判定 |
| 保育内容 | | | |
| 全体的な計画の作成 | | | |
| 1 | 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて全体的な計画を作成している。 | 保育の理念、基本方針、保育目標に基づいて全体的な計画を作成している。 | A |
| 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開 | | | |
| 1 | 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。 | 子どもが安全で安心して過ごせる環境整備に配慮し、定期的に点検し、清潔に保っている。危険箇所がある場合は職員で周知し、速やかに改善するようにしている | A |
| 2 | 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。 | 一人一人の子どもと愛着・信頼関係を築けるように、1対1で丁寧に関わる時間や、園が心の安全基地に感じられるよう、子どもの思いを受け止めたり、応答的な関わりを大事にしている。 | A |
| 3 | 子どもが基本的な生活習慣を身につけることのできる環境の整備、援助を行っている。 | 基本的な生活習慣が身につけられるよう、環境の整備や子どもの動線に合わせた職員配置と、一人一人の発達や意欲に応じた援助等を心がけている | B |
| 4 | 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。 | 子どもの興味や関心に応じた様々な遊びを用意して、保育者や友だちと関わりながら活動ができています。子どもたちの主体性をさらに伸ばしていきたい | B |
| 5 | 乳児保育（0歳児）において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。 | 子ども一人一人の心身の発達や興味・関心を十分把握した上で、それに沿った保育内容の計画をし、個別の援助方法を考えながら保育を行っている | A |
| 6 | 3歳未満児（1・2歳児）の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。 | 子ども一人一人の心身の発達や興味・関心を十分把握した上で、それに沿った保育内容の計画をし、個別の援助方法を考えながら保育を行っている | A |
| 7 | それぞれの子どもの在園時間を考慮した環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。 | 子どもの状況を把握した上で利用時間の長い子には、1対1の関わりを大切に保育し、安心感を持たせて | A |
| 健康管理 | | | |
| 1 | 子どもの健康管理を適切に行っている。 | 登園時の視診、保育中の体調観察、毎日3回検温を行なうなど、一人一人の健康観察をしっかりと行っている | A |
| 2 | 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。 | 健診等の結果や、一人ひとりの体質・健康状態の把握が職員間で周知されている | A |
| 3 | アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。 | 生活管理表やアレルギー対応マニュアルに沿った対応を職員全員が理解をして行い、アレルギー児が安全に食事ができるよう配慮している。また、研修に参加し知識を深めた | A |
| 食事 | | | |
| 1 | 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。 | 食べることが楽しいと思える経験を積み重ねられるような関わりを大事にしている。 | A |
| 2 | 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。 | 衛生管理の徹底や、個々の発達に応じた調理形態に配慮した食事の提供ができています。 | A |
| 子育て支援 | | | |
| 家庭との緊密な連携 | | | |
| 1 | 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。 | 園だより、クラスだよりを発行して、園での活動の様子を知らせたり、毎日の送迎時や、連絡帳等で個々の子どもの姿や育ちを伝え合っている。 | A |
| 保護者等の支援 | | | |
| 1 | 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。 | 個人面談など保護者からの相談に常に応じ、それぞれの家庭との信頼関係を大事にしている。明るい挨拶や笑顔を心掛け、どの職員でも話がしやすい園の雰囲気作りをしている。 | A |
| 2 | 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。 | 虐待防止マニュアルの共通理解をした上で、毎日着替えやおむつ交換の際に子どもの体に異変がないか視診をしたり、不安感や表情など心情面や行動なども注意して見るようにしている | A |
| 保育の質の向上 | | | |
| 1 | 保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。 | 定期的に保育セルフチェック等を行い、保育の振り返りや改善に努めたり、園内研修を進めている。職員間の話し合いの時間の確保が難しく、課題である | B |